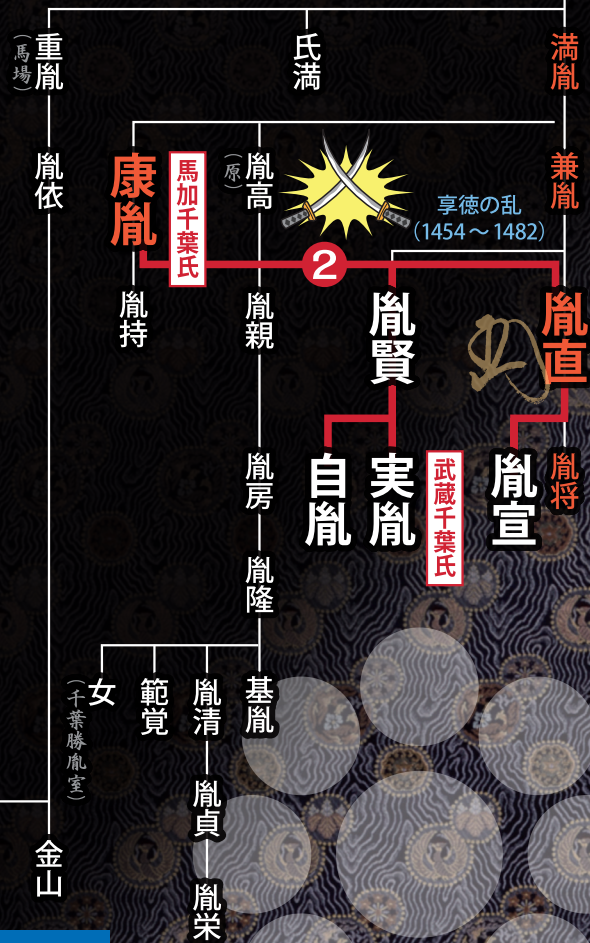


2 千葉氏宗家の滅亡

室町時代中期の関東では、鎌倉公方足利成氏かまくらくぼう あしかがしげうじと関東管領上杉氏の対立により、享徳の乱が発生します。この時、宗家の胤直たねなおは上杉側に味方し、胤直の叔父の馬加康胤まかやすたねは公方側に味方しました。

康正元年(1455)3月、康胤が千葉城を攻撃し、胤直・胤宣父子は多古城に、弟の胤賢は志摩城(多古町)へ逃れるも、同年8月に落城し自害します。市川城で籠城していた胤賢子息の実胤・自胤も、上杉氏の支援を受け武蔵へと逃れました(武蔵千葉氏の成立)。

これにより康胤が千葉氏を継承しますが、翌年上杉方との戦いに敗れ戦死してしまいます。こうして当主の死去が続いた千葉氏の家督は、庶流の岩橋輔胤が継承し、佐倉千葉氏として戦国時代へと続いていきます。



3 本佐倉城への移転

文明3年(1471)、上杉方による攻撃で、一時成氏が拠点の古河城から千葉氏の元へ逃れると、輔胤と子息の千葉孝胤ちかのりたねがこれを庇護し成氏を支援します。

しかし文明10年(1478)に成氏方と上杉方で和睦交渉が始まると、孝胤は武蔵千葉氏の復権により自身の家督継承の正当性が危くなる事を恐れ、これに反対します。更に武蔵千葉氏を復権させようと上杉方の太田道灌おたどうかんが下総に侵攻しますが、完全に千葉氏を討伐することはできませんでした。

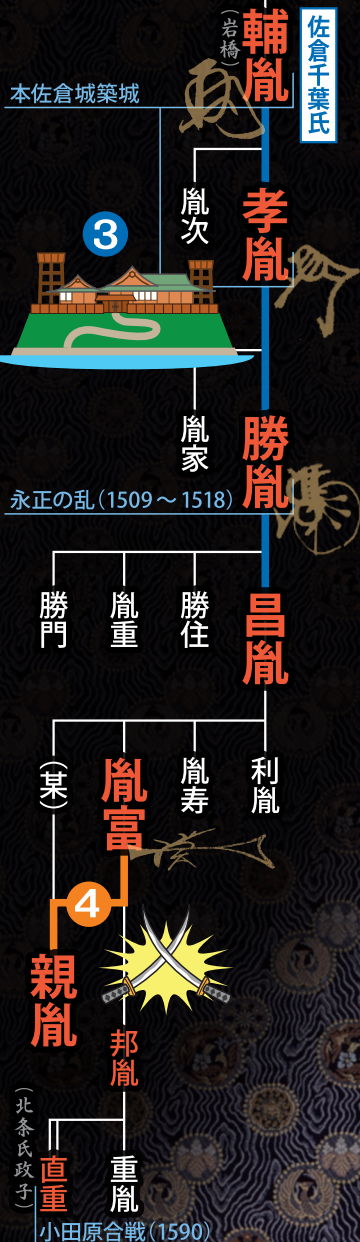
また同時期、千葉氏は本拠を本佐倉城へと移します。印旛浦に接した交通の要衝で、戦国期を通して佐倉千葉氏の本拠地となり、勝胤・昌胤の頃には最盛期を迎えました。

4 胤富の家督就任

天文15年(1546)に昌胤が死去し、跡を継いだ息子の利胤としたねも翌年に死去します。利胤には男子がいなかったため、家督は親胤ちかたねが継承しました。

しかし親胤は日頃から驕っており、家臣達が胤富ちかたねを当主の座に就けようと画策し、弘治3年(1557)に親胤は暗殺されたと伝わっています。親胤は胤富の弟とされていますが実際には甥であり、胤富が親胤と彼の父親(某)を傀儡とし、親胤の死後自らが当主の座に就いたという説もあります。

何れにせよ利胤・親胤の死と、胤富による当主交代の背景には、千葉一族内での激しい権力争いがあったと言えるでしょう。



(北条氏政子)